

27Q-pm056

化学の計算力向上を目指した基礎調査

○佐藤 厚子¹, 諸根 美恵子¹, 東 裕¹(¹東北薬大)

【目的】最近、化学の計算力不足の新入生が目立つようになった。その背景として、「ゆとり教育」や「高校における実験実習時間の不足」、「入試制度の多様化」等が考えられる。しかし、薬学教育、特に薬剤師教育においては、計算力の低下は専門教育や薬剤師業務に大きな影響を及ぼすことが予想される。今回、化学の計算力不足の要因とその改善策を考える目的で本調査を行ったので報告する。

【方法】以下の項目について、調査・検討を行った。①高校の教科書を用いた新旧課程の学習指導内容の比較。②学力確認試験（毎年4月、新入生に実施）における化学計算に関する正答率の年度推移。③演習授業での化学計算に対する理解度の年度推移。④化学計算に対する学習意欲。項目④については、自由参加型の勉強会を実施した。

【結果・考察】これらの調査・分析結果を総括すると、以下ようになる。①高校における学習指導項目において、新課程では新しい用語、特に、技術革新に関わる用語が追加されているが、全体的には明らかに索引の項目数は減少している。このことは基礎的な知識不足につながり、大学の授業についていけない学生を生む一因となっている。②計算問題に関しては、問題の意図・内容がイメージできない学生が多い。これは高校での化学実験の時間が削減されていることが影響しているものと考えられる。③大学で新しく学んだ内容は十分に理解できている。これは調剤に関わる内容（散剤・シロップ剤の調製）を事例として挙げることで、学生は新鮮な内容として受け止め興味が湧いたものと考えられる。④勉強会への参加者は予想以上であり、アンケート調査からも学生の学習意欲が非常に高いことがわかった。